

(参考様式)

上狩野地区元気な地域づくり計画 改善計画

2010年 6月29日作成

計画主体名	都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	実施した施策の概要		
					実施期間	事業内容(メニュー)	事業費
渋川市 (旧赤城村)	群馬県	渋川市 (旧赤城村)	上狩野地区	17年度～ 21年度	17年度	農用地等集団化(経営体育成促進換地等調整事業) ((1)地区内農地等状況調査、(4)合意形成促進、(5)地区内アンケート調査、 (7)地域営農構想作成、(8)経営体育成方針作成、(12)換地設計基準作成) 事業量:A=35.6ha	1,405千円

1 元気な地域づくり計画の目標

テーマ	かんがい事業を併せた基盤整備事業実施により担い手への農地利用集積を促進し、生産性の高い地域農業を目指す
目標1:	赤城西麓土地改良事業により整備された農地、水利用施設等の有効的な活用を図るため、担い手の育成や農地の利用集積を推進し、低コスト・高生産・高付加価値農業を強力に進め、輸入自由化等の農業情勢の変化にも対応できる「力強い農業の構築」を目指す。
目標2:	
上記目標に対する達成状況	
目標1:	実行委員会を中心として土地改良事業計画を策定中であり、また、担い手候補農家を選定したところであるが、地権者においては総論では賛成したものの各論においては各受益者の自己都合と営農の先行きへの不安感から補助事業の採択申請を行うまでの同意率に至らず、目標の達成は困難となっている。
目標2:	

目標が達成されなかった要因

- ・土地改良事業完了地区においては、農地条件が改善されたことに伴って賃借料が上昇していることから、本地区を中心として借地を拡大している農業者が事業実施に難色を示したこと。
- ・かんがい施設の維持管理費負担に関し、土地持ち非農家の相続が課題となっており、地域の合意形成に支障を来したこと。

目標達成に向けた方策

目標達成年度	24年度
全体計画	地区内道路網及び排水路網の整備を中心とした事業計画案を立案して、事業実施に対する同意率の向上策を取りまとめ、H24年度の補助事業採択と事業実施を目指す。 また、採択初年度に換地計画を取りまとめ、4年間で工事を集中的に進めて大規模化に対応した農地とするとともに、担い手による営農区域の確保に努める。

2 目標を定量化する指標

	成果目標	計画策定時			計画満了時			達成率 (%、下2 桁) (B/A)	指標が達成されなかった要因
		基準値 (17年度)	目標値 (21年度)	目標増減 (増減率等) (A)	実績値 (22年度)	実績増減 (増減率等) (B)	算定根拠		
必 須	基盤整備事業の着手まで 年数	—	3ヶ年	3ヶ年	—	—		0%	地権者の事業同意を取得できなかったこと
選 択									

指標達成に向けた方策

目標達成年度	24年度
--------	------

全体計画	<p>地区内道路網及び排水路網の整備を中心とした事業計画案を立案して、事業実施に対する同意率の向上策を取りまとめ、H24年度の補助事業採択と事業実施を目指す。 また、採択初年度に換地計画を取りまとめ、4年間で工事を集中的に進めて大規模化に対応した農地とするとともに、担い手による営農区域の確保に努める。</p>
------	---

3 目標・指標の達成に向けた方策の各年度実績(改善計画策定した翌年度以降、目標・指標達成予定年度まで毎年度作成)

(1)元気な地域づくり計画の目標

<p>本年度実施予定方策</p>	<p>事業計画を策定し、実行委員会の承認を得て、地権者説明会を開催し、補助事業の採択へ向けた条件整備を図る。</p>
<p>本年度実績及び成果</p>	
<p>所 見 (達成見込み等)</p>	<p>実行委員会において、早期の事業化への合意がなされているとともに、事業計画の承認を得て、地権者説明会を開催することとしており、事業着手へ向けての条件整備が図られつつあり、目標の達成に向けた合意形成が図られると推察される。</p>

(2)目標を定量化する指標

<p>本年度実施予定方策</p>	
<p>本年度実績及び成果</p>	
<p>所 見 (達成見込み等)</p>	

(参考様式)

〇〇地区元気な地域づくり計画書 改善計画

年 月 日作成

計画主体名	都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	実施した施策の概要		
					実施期間	事業内容(メニュー)・事業量	事業費
〇〇市 (旧〇〇市)	〇〇県	〇〇市 (旧〇〇市)	〇〇地区	17年度～ 19年度	17年度	メニュー名:山村と都市との交流促進 道の駅〇〇施設の増改築 増築 196.13㎡ 改築 481.90㎡ びわ茶製造工場	156,000 千円

1 元気な地域づくり計画の目標

テーマ	フルーツをテーマとして新たな観光客を誘致、地域の特性を活かした郷づくり
目標1:	体験活動の充実により地元農産物の魅力や知名度を上げる
目標2:	未利用資源を活用した地場産品の充実
上記目標に対する達成状況	
目標1:	地元食材を使用した調理体験や地元の花を利用したフラワーアレンジメントなどの体験を通して、地元農産物の魅力のPRに一定の効果が見られるが、交流人口の増加・販売額の増加について指標の達成には至らなかった。地域全体として集客、経済効果に成果があった。
目標2:	未利用資源を利用し、お茶等商品づくりを展開し、地場産品の充実が図られた。

目標が達成されなかった要因

指標のうちで未達成となっている交流人口の増加率並びに地域産物の販売額の増加率について、要因は下記のとおり。

- ①繁忙期の休日において駐車スペースが需要に対応しきれなかったこと、
- ②平成17年に、近隣に民間の農産物、おみやげ物を扱う2店舗ができたことにより、客が流れたことが要因と考えられる。

目標達成に向けた方策

目標達成年度	20年度
全体計画	繁忙期における駐車場不足への対策として、隣接地域用地を臨時駐車場として借り受け対応する。 またJR東日本株式会社等との連携による集客への取組、他地域の道の駅との連携やネット販売による販売額増加への取組を推進する。

2 目標を定量化する指標

	成果目標	計画策定時				計画満了時			達成率 (%) (B/A)	指標が達成されなかった要因
		成果目標 (A)	基準値	目標値	目標 年度	満了時 成果 (B)	実績値	算定根拠		
必須	交流人口の増加	10.57%増 (6.5万人)	61.5万人	68万人	19年度	9.27%増 (5.7万人)	67.2万人	レジ通過人数等による	87.7	顧客層が自家用車による個人客が中心であり、多くの駐車スペースを必要としているが、観光シーズンの土日は車を収容しきれない状況から目標値に届かなかった。
	販売額の増加	18.69%増 (57百万)	305百万	362百万	19年度	13.11%増 (40百万)	345百万	売り上げ集計による	70.14	周辺に競合施設が建ち、購買者の分散が見られた。
選択	体験調理室を利用した体験	18回	0	18	19年度	32回	32	利用簿による集計	177.8	
	未利用資源の開発製品数	87アイテム増	2	10	19年度	97アイテム増	11	オリジナル商品の開発数	112.5	
	びわ葉用の生産本数	200本	0	200	19年度	388本	388	びわの苗木の販売本数	194	

指標達成に向けた方策

目標達成年度	20年度
全体計画	<p>入込数増加に向けた方策として、JR東日本株式会社との連携を強化し、電車の往復チケットに、道の駅付近の食事場所などと協力してお寿司食べ放題や、道の駅でフラワーアレンジメント体験をセットにした日帰りの旅などで集客を展開していく。</p> <p>隣接地域用地を臨時駐車場として借り受け、繁忙期における駐車場不足への対策とする。</p> <p>このほか、車以外的高速バスや電車のお客様の道の駅における集客と販売促進に向けた体制整備の一環として首都圏からの集客をひきつけるため、Suicaでの決済機能を道の駅で使えるようにする。</p> <p>販売額増加に向けた方策として、冬に花のない東北、信州方面の道の駅(〇〇施設、△△施設、××等)との連携を強化し、にBtoBによる農産物販売をはじめ、お互いの地場産品を扱いあえるところを開拓することにも取り組む。</p> <p>特産のびわを使った新商品開発を行うほか、近隣の道の駅〇〇施設、△△施設、××、〇〇公園などお互いの地域の産物をセットにしてネット販売する取組を強化する。</p> <p>道の駅施設に隣接する施設との違いを知っていただくため、サイン表示の改修にも取り組む。</p>

3 目標・指標の達成に向けた方策の各年度実績(改善計画策定した翌年度以降、目標・指標達成予定年度まで毎年度作成)

(1)元気な地域づくり計画の目標

本年度実施予定方策	繁忙期における駐車場不足への対策として、隣接地域用地を臨時駐車場として借り受け対応する。 またJR東日本株式会社等との連携による集客への取組、他地域の道の駅との連携やネット販売による販売額増加への取組を推進する。
本年度実績及び成果	臨時駐車場としての隣接地域用地の借り受けについては、用地の選定や地権者との交渉などに時間を要し対応できなかった。 JR東日本株式会社等と連携した旅行用品の販売により集客に取組んだ。また、ネット販売等による販売額増加への取組を推進したことなどにより、目標値を達成した。
所見 (達成見込み等)	実施を予定していた臨時駐車場借り受けについては対応できなかったが、JR東日本株式会社等と連携した旅行商品の販売による集客への取組、ネット販売等による販売額増加への取組を推進したことにより、目標値を達成した。

(2)目標を定量化する指標

平成20年度

	成果目標	計画策定時				平成20年度			達成率 (%) (B/A)
		成果目標 (A)	基準値	目標値	目標 年度	本年度 成果 (B)	実績値	算定根拠	
必須	交流人口の増加	10.57%増 (6.5万人)	61.5万人	68万人	19年度	11.22% 増 (6.9万人)	68.4万人	レジ通過人数等による	100.6
	販売額の増加	18.69%増 (57百万)	305百万	362百万	19年度	21.31% 増 (65百万)	370百万	売り上げ集計による	114

<p>本年度実施予定方策</p>	<p>入込数増加に向けた方策として、JR東日本株式会社との連携を強化し、電車の往復チケットに、道の駅付近の食事場所などと協力したお寿司食べ放題や、道の駅でフラワーアレンジメント体験をセットにした日帰りの旅などで集客を展開していく。隣接地域用地を臨時駐車場として借り受け、繁忙期における駐車場不足への対策とする。</p> <p>このほか、車以外的高速バスや電車のお客様の道の駅における集客と販売促進に向けた体制整備の一環として首都圏からの集客をひきつけるため、Suicaでの決済機能を道の駅で使えるようにする。</p> <p>販売額増加に向けた方策として、冬に花のない東北、信州方面の道の駅(〇〇施設、△△施設、××等)との連携を強化し、BtoBによる農産物販売をはじめ、お互いの地場産品を扱いあえるところを開拓することにも取り組む。</p> <p>特産のびわを使った新商品開発を行うほか、近隣の道の駅〇〇施設、△△施設、××、〇〇公園などお互いの地域の産物をセットにしてネット販売する取組を強化する。</p> <p>道の駅施設に隣接する施設との違いを知っていただくため、サイン表示の改修にも取り組む。</p>
<p>本年度実績及び成果</p>	<p>JR東日本株式会社と連携し、電車の往復チケットに道の駅周辺の食事場所と協力したお寿司の食べ放題や道の駅でのフラワーアレンジメント体験をセットにした商品を開発したり、またSuicaでの決済機能を導入するなど首都圏からの集客を図った。また、〇〇特産のびわを使った新商品の開発を行ったほか、他の道の駅と連携し、BtoB、インターネットによる特産品販売などを強化したことなどにより、目標値を達成した。</p>
<p>所見 (達成見込み等)</p>	<p>JR東日本株式会社と連携した商品開発、Suicaでの決済機能導入等により、交流人口の増加については目標値を達成した。また、販売額の増加については、〇〇特産のびわを使った新商品の開発、他の道の駅と連携したBtoBやインターネットによる特産品販売の強化等により、目標値を達成した。</p>